

## 開催のご挨拶



日本家庭科教育学会 会長  
鈴木明子(元広島大学)

日本家庭科教育学会第69回大会は、2026年7月4日・5日の2日間、オンラインで開催されます。福井典代実行委員長をはじめとする四国地区実行委員会の皆様のご協力をいただき、学会本部理事とともに準備を進めてまいりました。関係の皆様のご多大なるご尽力に心より感謝申し上げますとともに、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

本大会のテーマは「次期学習指導要領における新生家庭科を考えるー開かれた教育課程のなかで家庭科は何ができるかー」です。情報技術の急速な進展、国家間の紛争やグローバルな課題の生起、地球規模の気候変動等を背景として、我々は今、社会・経済システムの転換期に生きています。そして、VUCAの時代と呼ばれる現在、我々の身近な生活も変化を余儀なくされています。生活の要素である「ひと」「もの」「こと」、それらの相互作用の中で生まれる生活価値、生活認識、生活行為・行動(個人・家族・集団)はますます多様化しています。このような変化の中で、生活主体を育てることを使命とする家庭科は、今、そしてこれからどのような教科として存在すべきか、新たな視点で家庭科を再構築する必要に迫られています。

現行学習指導要領では、学校と社会が目標を共有し、連携・協働して子どもを育てる「社会に開かれた教育課程」の理念が掲げられ、新たな時代に求められる資質・能力を基盤とした学力観に基づく学習の推進が明確に打ち出されてきました。本学会でもこれまで「家庭科とウェルビーイング」をテーマに挙げ、ウェルビーイングを支える家庭科の役割を追究し、教育課程改革の動きをふまえて、AI時代におけるその教育の意義と家庭科の在り方を探ってきました。

その後、学習指導要領の改訂作業が進む中で、教育課程企画特別部会の「論点整理」(令和7年9月)では、「『主体的・対話的で深い学び』の実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」の3つの方向性が示され、とりわけ「主体的・対話的で深い学び」の実装については、授業改善を通じた資質・能力の育成を一層具現化することが目指されています。さらに、それらの提案を踏まえて、教育課程部会家庭ワーキンググループでは、令和7年10月から同8年4月までの間に6回の会議を通じて議論が重ねられています。基本的には現行学習指導要領の考え方を引き継ぎながら、家庭科で育成する資質・能力のあり方、指導と評価の改善・充実、柔軟な教育課程を検討する方向の中で、小・中・高等学校家庭科における目標・内容・方法の体系的な整理、社会変化への対応と生活文化の継承の両立のための内容の検討等、具体的な課題について検討が続けられているところです。家庭科は、新課程では中学校で単独の教科となる予定であり、小学校、中学校、高等学校と発達段階の特徴を踏まえた内容の体系化を図ることがこれまで以上に求められます。さらに他教科との連携を模索する一方で、その独自性を明確にして家庭科教育の意義を発信していく必要があります。家庭科教育に関するこれまでの研究成果に立脚しつつも、予測困難な現代の暮らしの状況から

目をそらさず、これまで当たり前と捉えていた家庭科の常識をダイナミックに転換することも、大会テーマの「新生家庭科」の意味に含まれています。さらに、社会や生活様態の急激な変化の中で、大人がつくる様々な生活状況に身を置く子どもたちの実態や課題を捉え、その現実に向き合うことも求められています。

本学会は来年設立 70 周年を迎えます。現在に至るまで、子どもを取り巻く家庭環境、社会環境、学習環境が大きく変わる中で、子どもたちの生活主体としての資質・能力を育むことをめざして、理論研究や実践研究を進めてきています。今後も、未来を生きる人材の育成に向けて、家庭科の本質や特徴を強みとし、子どもの思考に沿うカリキュラム開発や授業改善を学会として支援して参りたいと考えています。

そこで、第 69 回大会の 1 日目には、中央教育審議会教育課程部会長である奈須正裕氏を講師に迎え、家庭科で求められる資質・能力、学力や授業づくりについて講演いただき、家庭科授業や教員養成・教員研修に関わる4人のシンポジストと共に、開かれた教育課程の中で、家庭科がどのような役割を果たし生活の質の向上に貢献できるのかについて皆様とともに考えたいと思います。

2 日目には、四国地区実行委員会企画による「『主体的・対話的で深い学び』の実装に向けた概念型学習」をテーマとした講演、実践報告およびパネルディスカッションを行います。「概念型のカリキュラムと指導」公認トレーナーであり、国際バカロレア (IB) ワークショップリーダーの秋吉梨恵子氏から、「『深い学び』はどう生まれるのか — 概念型学習の可能性」という演題で講演いただいた後、中学校・高等学校の先生方による関連の実践報告を交えて、「家庭科教育における概念型学習の可能性」について議論を深めたいと思います。

また、大会2日間で 62 件の口頭発表が行われます。研究成果に学び、また活発な質疑応答を通して発表者との交流を図っていただきたいと思います。さらに「若手の会」交流会も予定しています。ここでも実り多い議論が行われ、参加された皆様が親睦を深める機会となることを願っています。

本大会は、文部科学省の次期学習指導要領の改訂の動きを捉えて、来年度の 70 周年記念大会に向けて動いている中での開催となります。2 日間のオンライン形式による開催ということで様々な制限は伴いますが、本大会が、様々な課題や可能性について語り合い、参加された皆様が関係を結ぶことを通して、それぞれの家庭科教育に対する思いや考えを深め広げる機会となることを祈念いたします。